

星図の白い部分が  
広がるほど、  
探索は“無謀”の色を  
濃くしていった—。



# 辺境惑星と 拒まれた神

シュウウウウ...



「着陸準備。  
原生資源が眠ってる。  
拒まれたって、前に  
進むのが我々の仕事だ」

ゴゴゴ

「……了解」



カッ



（航海士のメーレー。  
踏み込む前に一拍置く。  
それが命取りにも救いにも  
なると知っている）



『侵入開始、  
作業班は前進！』

ゴォ



オオオ

赤茶けた大気をまとい、  
夜でも星明かりが霞む  
採掘見込みゼロ級の星。





(影は形を持っているのに、  
輪郭が呼吸するように揺れる。  
揺れる。  
光の反射では説明できない。)



ビュ〜ッ...

気配?  
恐怖心か


気配がある。  
観測機が誤作動してる  
だけじゃないと思います

(衝撃は爆発のそれではない。  
地面が、こちらに向かって  
“押し返す”ように隆起した。  
熱で溶けたというより、  
“形を失って”消えていった。)

ガキ

ガキ

「な、何だ……！」



(これは物理的な攻撃ではない。  
我々の技術が、あの樹の構造物に  
触れたことで、何かが自分たちを  
何かが自分たちを識別したのだ。)

(侵略者を「拒む」ための反応。)



(触れた瞬間、砂が柔らかく  
“吸い込む”ように沈む。  
冷たいはずなのに熱を感じ、  
熱いはずなのに痛みが消える。  
時間の感触が狂う……)



「止める、  
作業を続ける！  
回収は最優先だ！」

ガガガ...

ド  
オオン

(まるで手で書かれた  
文字のように、  
流れる光が“道”になる。)

ビュッ  
ユッ

キュイン

キュイン



フウー

フウー

ブイー

ブイー

ここで掘るとい  
う行為そのものが、  
神への侵害になるんです



ザザツ

ザザツ...

司令。  
今の反応は  
攻撃じゃありません。  
拒絶です。

彼らは、我々の  
"目的"が  
わかってる

ゴオオ...



ブウウウウ

ン

「掘らないなら、拒まれ  
拒まれ続けても  
関係が壊れない」。

「掘らない  
が、エムなら  
反応している。  
彼らは引き金のように  
なら、引き金を引かない  
選択をするべきです」

ブウウウウ  
キーン



「評価より、  
船が帰れますか？  
いま掘れば、ここが  
ここが「拒絶」を続ける。

キュイン

キュイン



「目的？  
資源回収だ！  
撤収したら  
評価が落ちる！」

ドゴオン

ニ  
ニ  
ニ



「……さっきの道、  
まるで……帰り道を  
示してくれたみたい  
だったな」

ヒュウウン...

ブウウン...

ブウウン...

ザツ...

ザツ

ザツ...

ザツ...

(砂に触れなければ、  
拒絶は暴走しない。  
光の揺らぎと音の周波  
だけを記録する。)



「……観測だけだ。  
撤収は最短で。」



【訪問・対話する者】  
触れずに観測だけを保てば、  
帰るべき道が示される。

キーン

スーン...


「拒むだけで終わらない、理解のための順序。」

ドゴォン

【侵入・奪う者】  
触れて奪おうとすれば、  
形を失どの拒絶と破壊が待つ。



バァン



……お前の判断、  
正しかったのか  
かもしれないな」

「まだ始まったばかり  
撤収しただけ。  
次は、侵入じゃなくて  
“訪問”にする」

「銀河は広い。  
だが境界の向こうで、誰かが手を伸ばしている——  
拒むだけで終わらない、優しい“拒絶”を残して。」